

政策の柱	I 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	2 高齢期の生活を充実する	政策の達成目標 (基本施策目標)	高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で生きがいをもって、充実した生活を送っています。	H23中間総括評価 時点の政策の達成度	<b>B</b>	A:順調 B:概ね順調 C:少し遅れている D:遅れている
------	-----------------------------	----------------	---------------	---------------------	--	------------------------	----------	----------------------------------

1 政策を構成する各施策の取組状況

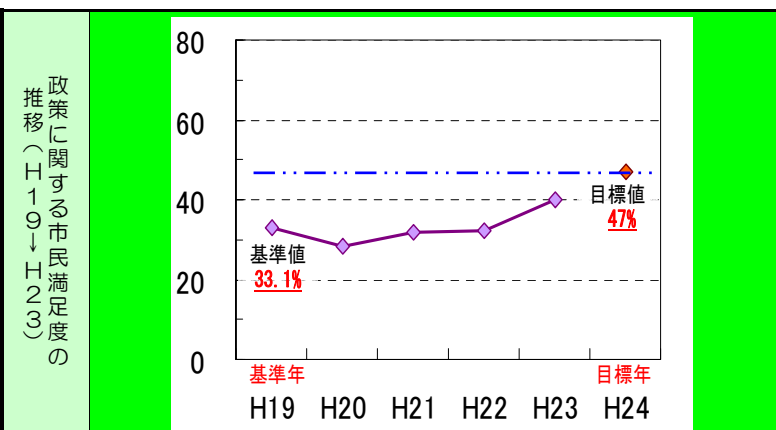
No.	施策名	主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標 指標の数値	課題
1	高齢者の自立促進	◆全小学校区域において介護予防教室を開催し、地域における介護予防の取組を推進している。 ◆認知症の正しい知識の普及や理解の促進を図るため、全市民的な啓発事業に取り組むとともに、認知症サポーターの養成などの取組を進めている。	◆要介護認定を受けていない高齢者の割合は横ばいで推移しており、H23はH19比で同等の実績となっている。 ⇒ H24末の状況としては、今後も同様の傾向が続くと見通していることから、目標の達成は難しい。	94.5%	◎要介護認定を受けていない高齢者の割合 現状値 H23:85.1% ↓ 目標値 H24:90.1%	◆介護予防をより一層推進するためには、高齢者自らが健康づくりや介護予防に取り組むことが重要となることから、高齢者の状態に合わせた介護予防事業の充実が必要となっている。 ◆医療・介護・福祉が緊密に連携した認知症ケア体制の充実が必要となっている。
2	高齢者の生きがいづくりの充実	◆H20年7月にみやシニア活動センターを設置し、シニア世代の生きがいづくりに取り組んでいる。 ◆高齢者外出支援事業において、利用者の利便性の向上を図るとともに、地域内交通を選択肢に取り込むなど、公共交通による外出機会の確保に取り組んでいる。	◆みやシニア活動センターの利用者数は、開設3年目で目標値を上回る実績を上げており、H23はH20比で約2倍となっている。 ⇒ H24末の状況としては、センターの周知、利用の促進を図ることで、目標値を上回る実績を上げると見込まれる。	145.0%	◎みやシニア活動センター利用者数 現状値 H23:841人 ↓ 目標値 H24:580人	◆みやシニア活動センター事業の推進のためには、多様化するシニア世代のニーズに応じた支援ができる体制の確保が必要となっている。
3	介護保険事業の充実	◆介護を必要とする高齢者などが適正な介護サービスを受けられるよう、居宅サービスや施設サービスなどの各種サービスの充実に取り組むとともに、サービスの周知に努めている。	◆要介護認定者数のうち要介護4及び5の認定者の割合は若干増加する傾向で推移しており、H23はH19比で2%の増加となっている。 ⇒ H24末の状況としては、今後も同様の傾向が続くと見通していることから、目標の達成は難しい。	92.1%	◎要介護認定者数のうち要介護4及び5の認定者の割合 現状値 H23:25.4% ↓ 目標値 H24:23.4%	◆介護を必要とする高齢者などが、適切な介護サービスを受けながら、それぞれの有する能力に応じて自立した日常生活を営むためには、できる限り要介護状態とならないための予防への取組や地域バランスのとれたサービス基盤の整備が必要となっている。 ◆介護サービスの利用者自らが、必要とするサービスをより適切に、より効率的に選択できるよう、介護保険制度やサービス内容等の情報提供が必要となっている。
政策を構成する施策指標の達成状況		<b>A</b>	※各施策の「指標の達成度」の平均値をA～Eの指標で提示 90%以上:A 80～90%:B 60～80%:C 40～60%:D 40%未満:E	施策指標の達成度 平均値	110.5%	

2 これまでの取組状況（H20～H23）と見通し

主要な取組内容	成果の大きい施策	政策を構成する施策については、3施策ともに施策指標を90%以上達成しており、市民の重要度・満足度についても一定の評価を得ているところである。	外部 特記 事項 など	◆国では、「新成長戦略」における7つの戦略分野のひとつである「ライフ・イノベーションによる健康大国戦略」において、高齢者の将来の不安を解消し、生涯を楽しむための医療・介護サービスの基盤強化、地域における高齢者の安心な暮らしの実現を掲げており、併せて、「社会保障・税一体改革」の方向性において「地域包括ケアシステム」の構築を位置付けている。また、今後、高齢化の更なる進展に伴い認知症の高齢者が急速に増加していくことが見込まれることから、平成23年11月に「認知症施策検討プロジェクトチーム」を設置し、平成24年度内を目途に今後の認知症施策の方向性についてとりまとめを行う予定となっている。  ◆市民懇談会からの意見として、高齢期の生活を充実するためには、支援が必要になる前の介護予防や健康づくりを促進する「高齢者の自立促進」の一層の推進や、高齢者のノウハウを活かせる場の提供による「高齢者の生きがいづくりの充実」のほか、地域の高齢者への支援策などについて、地域社会の住民の実態に即した見直しを行い、効果的・効率的に事業に取り組んでいくことが望まれている。	実績とH24末の見通し	◆「高齢者の自立促進」は、全小学校区域において介護予防教室を開催し、地域における介護予防の取組を推進している。また、認知症の正しい知識の普及や理解の促進を図るため、全市民的な啓発事業に取り組むとともに、認知症サポーターの養成などに着実に取り組んでいる。 ⇒ 今後も、関係機関等との連携を強化しながら、地域での支援体制の充実に取り組むことで、高齢者の自立した生活が一層促進される見通しである。 ◆「高齢者の生きがいづくりの充実」は、みやシニア活動センターにおいて相談事業や様々な企画事業を着実に実施している。また、外出支援事業において専用バス乗車券等の窓口での交付に取り組むとともに、地域内交通を選択肢に取り込むなど、利用者の利便性の向上及び事業の充実を図っている。 ⇒ 今後も、各事業の周知を図りながら、引き続き事業を推進することにより、より多くの高齢者に対し生きがいづくりの支援が図られる見通しである。 ◆「介護保険事業の充実」は、居宅サービスや施設サービスなどの各種サービスの充実に取り組むとともに、サービスの周知に努め、順調に事業を推進している。 ⇒ 今後も、適正に事業を推進することにより、介護を必要とする高齢者などに適切な介護サービスを提供できる見通しである。
	取組の遅れている施策	「高齢者の生きがいづくりの充実」については、高齢者を取り巻く環境は変化しており、ニーズも多様化していることから、高齢者の望むライフスタイルが実践できるような支援体制や場の確保が必要となっている。				

3 市民意識調査結果

H23市民意識調査	市民の政策満足度		政策に関する市民満足度の推移（H19→H23）
	H23満足度	達成率	
	40.1%	85.3%	
目標に対する達成率が 高：90%以上 中：70～90%未満 低：70%未満		<b>中</b>	



4 今後の方向性

今後の方向性	<p>◆「高齢者の自立促進」は、高齢者が健康で自立した生活を送れるよう、介護予防教室の開催や地域での自主的な継続した介護予防の取組に向けた支援に取り組む。また、認知症高齢者が暮らしやすい地域づくりを目指し、認知症サポーターの養成に取り組んでいるが、高齢化の更なる進展に伴い認知症の高齢者が急速に増加していくことが見込まれることから、認知症高齢者の状態に応じた適切なケアが提供できるよう、地域特性を生かした「医療・介護・福祉が緊密に連携したネットワーク」の構築等、更なる事業の推進が必要である。</p> <p>◆「高齢者の生きがいづくりの充実」は、高齢者一人ひとりが尊厳を持ち、元気にいきいきと暮らしていけるよう、みやシニア活動センター事業の推進により、多様化する高齢者のニーズに応じたライフスタイルづくりを支援するほか、高齢者が積極的に外出することができるよう、引き続き「高齢者外出支援事業」に取り組む、高齢者の社会参画の促進を図るなど、更に事業を推進していく。</p> <p>◆「介護保険事業の充実」は、できる限り要介護状態とならないための予防への取組を推進するとともに、介護を必要とする高齢者などが、必要とする介護サービスをより適切に、より効率的に選択できるよう、介護保険制度やサービス内容等の情報提供に取り組んでいく。</p>
--------	--